

## 第2章 まちづくりの方向性

---

これからのまちづくりは、少子高齢化・人口減少・グローバル化といった厳しい時代を直視し、新たな方法で展開していかなければいけません。また東日本大震災を教訓に安全安心な暮らしの重要性を再認識し、今後は生きる充実と自然と共に暮らし、人々が共に生き市民が生き生きとした活動が見えるまちにしていく必要があります。

具体的には平成27年春開業の北陸新幹線飯山駅に向けて、飯山のイメージ・まちづくりの方向性をまとめ魅力向上のための素材抽出・分析を行います。

### 2-1 まちづくりデザインの考え方

(1) 魅力的な飯山のまちづくりの方向性を、来訪者を意識した飯山のイメージデザインを考えます。

<視点>

人はデザインされたものを好み、飯山では景観、季節感、樹や花、食、物産（工芸）、寺町（城下町）などの歴史や文化を素材としてデザインし、『飯山市の魅力創造』することとします。

<展開>

- ・ 駅前に降り立ったとき、魅力的な第一印象のイメージを創造します。
- ・ まちを歩きたくなるイメージを創造します。
- ・ 宿泊したくなるイメージを創造します
- ・ 周辺の山に行きたくなるイメージを創造します。
- ・ 飯山を訪れたくなる情報イメージを創造します。（地域のブランド化）

(2) まちなか（市街地中心部）の活性化から、新しいまちづくりデザインを考えます。

<視点>

多勢の観光客がまちなか（高橋まゆみ人形館）に訪れ、新幹線駅開業が3年後に控えている中で、まちなか商業の条件も変わってきています。可及的な活性化は市民生活を対象とする商業のほかに、こうした観光客を視野に入れた商業展開も重要です。そこで短期的と長期的なまちづくりについて組み立て『まちなかを再創造』することとします。

<展開>

- ・ 中心部の人口を増やします。
- ・ 購買者にあわせたテナントミックスを行います。 ※テナントミックス：異業種の複合化
- ・ 商品や商店のデザイン化を図ります。
- ・ まとまりのある地域毎にエリアマネジメントを行います。  
※エリアマネジメント：一団の地域のまちづくり運営管理をマネジメントする事
- ・ 市民活動の魅力的な場を提供します。

(3) 観光・まちづくり成功のための必要条件を整えます。

<視点>

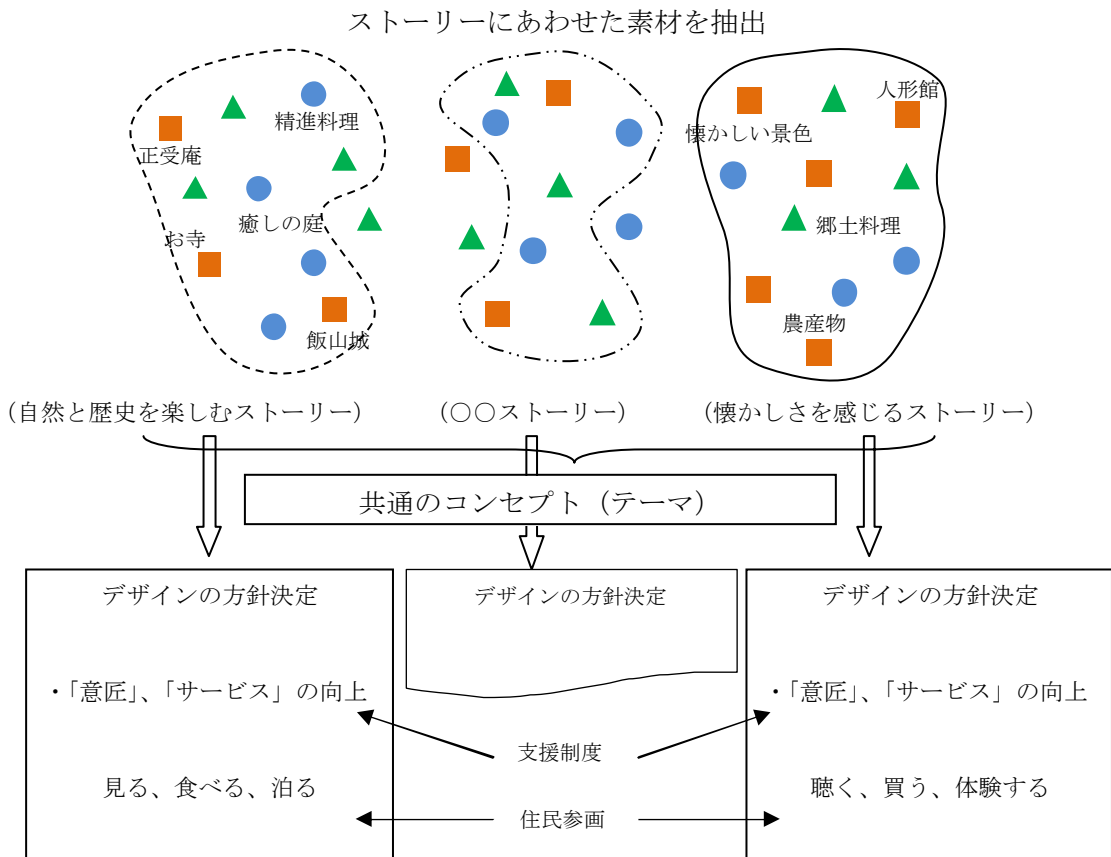
北陸新幹線沿線の地域との差別化をはかり、飯山ならではのまちづくりを展開するためには、以下の必要条件を整え、確実にまちづくりが展開できるようにします。

<7つの必要条件>

- ① 目玉となる資源 (他にないもの (独自性)、全国レベルのインパクト)
- ② グランドデザインとコンセプト (点から線へ線から面へ、ワクワクする (楽しい) まちづくりデザイン (ストーリー性)) ※グランドデザイン: 基本的構想
- ③ リーダーシップ (統一まちづくりデザインの指揮)
- ④ 資金力 (形にするための財源確保)
- ⑤ 情報発信力 (相手に着実に情報が届くことが大切)
- ⑥ 住民の参画 (参画から生まれる地域愛やまちへの誇り)
- ⑦ 外部からの支援 (地元では気づかない事の助言など)

<展開イメージ>

優れた素材を抽出しストーリーでつなげます。また共通するコンセプトに沿って対象となる物の意匠やサービスを高め魅力アップを図りながらまちづくりを展開するイメージです。



#### (4) まちの雰囲気づくりを大切にします。

##### <視点>

まちの雰囲気を具現化することでまちづくりの方向性を捉えます。

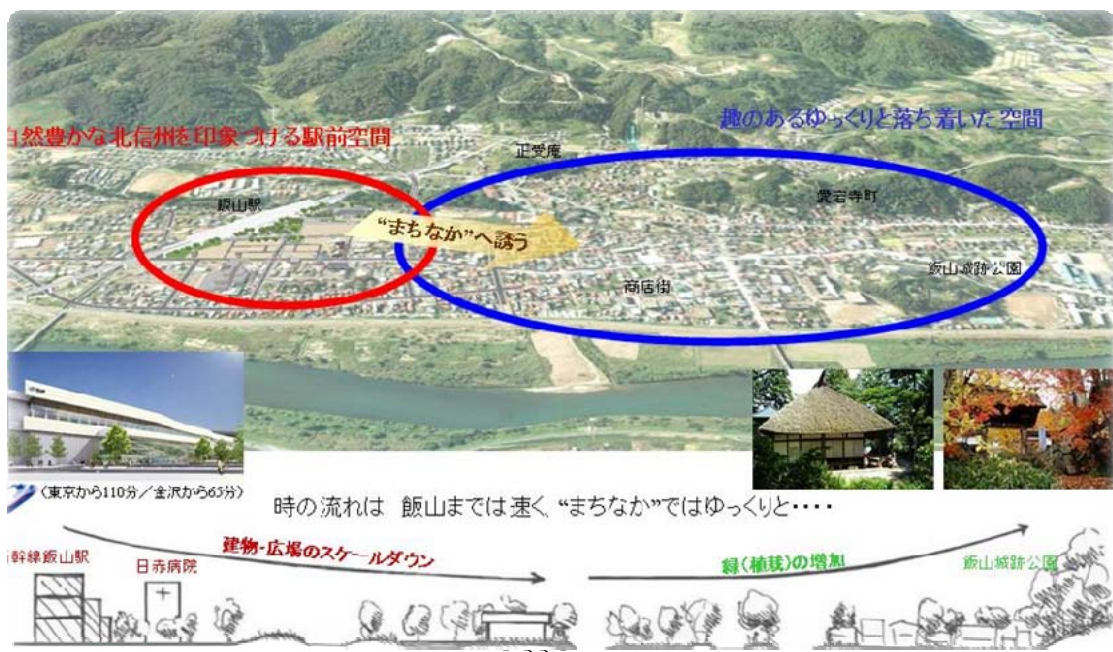
##### <展開>

###### 【駅周辺を歩いてみると・・・】

- ・第一印象として「いい街に来たな♪」「何かありそうだ!」と感じさせます。
- ・市民の元気や志や温もりが、まちなかに存在しています。駅前広場などは市民活動の拠点となります。(市民の自由で親切なもてなし)
- ・ポスターやパンフレットのイメージどおりの雰囲気をつくります。(山のイメージ)
- ・駅前では土産品店だけでなく、飯山の美味しい食材のマルシェ(市)があり、デザイン化されたテントや店舗の演出、楽しく明るい市民運営が印象的です。

###### 【まちなかを歩いてみると・・・】

- ・市民と生活景を創造していくことでデザインを育てていきます。飯山での日常の美しさ(季節感)を、四季の草花や水辺空間・灯りなどで演出します。
- ・質の高い修景によるまちのデザインを追求します。観光的和風は偽物と評価されてしまいます。たとえ和風であっても現代感覚の飯山デザインモデルも考える必要があります。
- ・伝統的工芸を生かしたアートやデザインを暖簾やフラッグ・看板など積極的に導入しています。
- ・駅からまち歩きをしている中で、自然景(借景)を効果的に見せる空間構成とサイン整備を行い、周辺部の山や川へも誘うようにします。
- ・地元食材と美味しい食事やスイーツ、商品パッケージなどは世界に通用するデザインを市民のほかにIターン者を引き込み新しい感覚を採用します。
- ・中心地の定住促進政策を展開し、賑わいを感じるまちとします。
- ・中心地での市民活動の見える化を推進します。
- ・飯山らしいライフスタイルが経験できる宿(町家旅館、寺宿など)を創造します。



## 2-2 まちづくり素材の抽出と分析

歴史や伝統、自然などの時代背景からかたちづけられる地域の素材を活かし、感動を与えるまちづくりを展開するにあたり、「まちのかたち」として目に見え体感できる、「目玉となる資源」つまり独自性のあるまちづくり素材について次のとおり整理します。

【まちなかで活用する素材】

大分類	中分類	小分類（まちづくり素材）		
		要因（原因）	要因をかたちづけている事柄	みえる・体験
歴史	城	上杉謙信・勝頼・景勝普請らによる築城と城下町・寺町が形成された	長野県史跡指定（本丸・二の丸）	飯山城郭・門復元、桜名所など
	城下町		地名	鉄砲町、肴町など
			市（いち）	朝市、六斎市
			町家、土蔵	一利用状況なし
寺院	36 寺院群	寺巡り、寺宝展、仏像 祈りの寺、歌人、境内		
	正受庵	真田信之の子、正受老人の庵、白隠 禅師修行の寺	禅庵、蹴落し坂、梅（藩主別離記念） 水石（藩主から得た水石）、平安仏 長野県史跡指定	寺巡り、禅
自然	四季	四季の変化が明快	（春）菜の花、桜（夏）新緑 （秋）紅葉、（冬）降雪	寺や民家の庭 公園樹、街路樹 フラワーロード
	山・丘陵	地形的条件（盆地）	関田山脈、三国山脈、高社山 長峰丘陵	トッキング 自然風景
	川	日本一長い河川	千曲川	川下り（カヌーなど） 自然風景
暮らし	雪国	多雪な冬の気候	積雪	雪灯籠、雪像
文学	文学碑	島崎藤村や高野辰之・土田耕平らが 飯山の情景を詩にする	破戒、朧月夜	真宗寺文学碑
信仰	まつり	地域の五穀豊穡、無病息災を祈念	春祭り、秋祭り、道祖神	奈良沢の火祭り
食	郷土食（歴史食）	川中島合戦に向かう道中に富倉住 民から献上され好んで食べた食べ 物	県選択無形民俗文化財指定	笹ずし（謙信寿司）
		美味しい水と米の産地、気候風土	地酒	北光、養老、水尾
		ヤマボウシのつなぎ、気候風土	そば	富倉そば
		飯山城主に献上された和菓子	市内和菓子店にて販売	和菓子（スイーツ）
新たな食の開発	飯山市内で育ったみゆき野ポーク を使用し地域おこしの一貫で丼物 をはじめ料理を展開			みゆき豚（丼）
建物	雪国	冬の生活を快適に過ごす為の工夫	雁木造り、中門造り	愛宕寺町雁木通り
産業	伝統工芸	寺社政策による仏教信仰の厚い場 ができ、豊富な木材と漆塗りに適し た気候から仏壇造りが発展	通産大臣伝統的工芸品指定	飯山仏壇 （通産大臣伝統的工芸品認定） ※蒔絵体験などを実施
		冬期間の家族仕事として、雪を活か した紙作りが行われてきた。		内山紙（和紙）
	スキー（製造）	スキー観光と共に地場の産業とし てスキー製造が盛んになった。	スキー製造工場が点在していた（現在 は市外・国外へ転出）	
スポーツ	スキー	妙専寺住職市川達譲により長野県 で初スキーが伝来された	スキー観光、産業の発展	2012年スキー長野県伝来100周年 オリンピック選手育成
観光 （まちなか）				高橋まゆみ人形館
交通	河川交通	塩や海産物を越後から信州へ運ん でいた。		飯山港記念碑・記念公園
	鉄道交通	西大滝ダムの建設資材輸送を発端 に、軍事輸送等で重要路線になる	先人（寺田裕之、五島慶太）の力添え により国鉄へ昇格	飯山鉄道(株)、五島慶太郎 SL(C56-129)飯山線、北陸新幹線
	道路交通			塩の道、飯山街道（谷街道）
イベント			四季と住民パワーを活かした街おこし イベント	菜の花祭り、灯籠まつり、寺町花街道、 雪まつり

## 2-3 「市民活力」が魅せるまちづくり（ソフト分野）

### （1）イメージ力と情報発信力のアップ

人間はイメージを固定化する傾向があります。最初に定義づけ（予期）をしてから結果を見るという予期確認を人間は行うというものであり、この社会心理を活用し新幹線飯山開業にむけて飯山らしさを発信するために“魅力的な飯山イメージ”を構築する必要があります。飯山にある素材から「行ってみたい・アツと思わせる」人目を引くような優れたデザインによる飯山イメージ（キャッチコピー）と、他地域との差別化を図り飯山らしさ（個性）をステレオタイプの培養基・増幅器としてきわめて重要な役割を果たす、マスコミやパンフレット・インターネットやポスターなどで積極的に情報発信をする必要があります。

### （2）公共空間での実践

公共空間を有効的に活用するために、自由な発想で社会実験的に実践し非日常的な視点で“潜在するまちなかの魅力”の発見を促し、市民活動の空間として活用します。



### （3）まちが元気になる人材育成

質の高いスキルを持つ人材育成により、同じ志向をもつ仲間が集まり連鎖的に市民活動が誘発されます。市民自らのデザインがまちの至る所に現れてきたとき活きたまちとなります。

### （4）ブランド力の強化と起業支援・企業間連携

まちづくりを進めるには地域経済を良い方向へ導く事が大切である。企業誘致を進めながらも、今ある産業について強化していくために、飯山のイメージが良くし、そこから生み出される商品・サービスがブランド化していくことを考えなければなりません。そして他地域には負けないものが位置づけられることとなります。しかしこれを実現化するためには、商品開発から始まって、質の高いデザイン性・情報発信強化・販売促進強化・サービス向上など様々な事をクリアしなければなりません。そこで、プロデュースやコーディネートのできる人材誘致をしながらの地元者を支える仕組みや、起業支援・企業間連携が重要であります。

特に飯山を支える農業の農産物ブランド化・直接販売・加工品開発・飲食サービスなどに挙げられる第6次産業は今後のまちづくりにおいても推進すべき重要事業といえます。

## 2-4 「修景」によるまちづくり（ハード分野）

まちを形成している大きな要因は飯山城築城と城下町の形成にあります。往時の町並みが今もなお残っていれば、そのエリアを歴史町並み保存といった進め方でまちづくりを行う手法もありますが、飯山は幾度にもわたる大火により当時の面影を残すまちなみは現地調査からもほぼ残っていないのが現状です。そこでこれからのまちなみを整えていくにあたり、四季の変化が大きなキーポイントとなります。その中で建築物については自然と調和させる造り方、つまり修景を用いたまちづくりを進めます。修景とは、自然の美しさを損なわないように風景を整備することで、飯山のまちなかにおいては、雪国である気候条件も考慮した建築修景や植栽修景を考えます。

留意すべき事は、城下町・寺町を意識した歴史様式を求めるだけでなく、現代性デザインも含め地区にあった四季・自然に従ったデザインを進めることとします。

### （1） 修景の方向性と実践

現地調査において把握された修景ポイントや、まちづくりのポテンシャルが高いエリアで修景効果を高めます。また、その方向性は『いいやま景観賞受賞事例』や『先進的事例』なども参考に、既存にある建物等は外壁などの改修と植栽のマッチング、新規に整備するものは建物と植栽による修景を行い、まちの良さを伝えます。

#### 【城下町を意識した修景】



<地区>

- ・城下町の風情を醸し出す地域に望ましい。

<工夫点>

- ・酒屋の店構えを和風に改修。下見板、格子、下屋設置
- ・歩道と建物間のスペースに広葉樹を植栽し、城下町の店舗を醸し出している。

（平成 年度いいやま景観賞受賞（株）中屋酒造店）

#### 【自然（nature）を意識した修景】



<地区>

- ・自然豊かな北信州を印象付ける地域に望ましい。

<工夫点>

- ・建物周りには緑地スペースを設け建物と植栽の調和を基調とします。

## (2) 修景の課題

まちづくりに“活かすべき要素”と“景観を損なう要素”をまちなかにプロットします。まちづくりデザインにおいては、これらの相反する要素が近接して存在したり、両方の要因が重なって存在したりすることがあることから、そのプラスとマイナスの要因をいかにうまく処理するかということが重要となります。

歴史背景との整合や自然との調和を主体と考えるのであれば、勾配屋根以外の形状や自然素材以外の材料、原色に近い色彩などの民家・店舗などの要素も、まちづくりデザイン全体から見ると改善すべきポイントと考えられます。道路や公共建物以外の民間建物については、市民の景観に対する意識をいかに高めていくということが重要となります。

■ まちづくり素材の分布図

